

鯖街道 熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県速岐郡上中町熊川

TEL/FAX (0770)62-0330



雪の朝・上ノ町の町並み

熊川の町並みで最も京側にあるのが、上ノ町の町並みです。ここは長さ四五〇メートルあり、道だけでなく、前川の水路も二度左右に振れて流れます。道ぶちに大岩、あるいは子守岩と呼ばれる巨岩があるからでしょう。

また、道の屈曲は、家並みを美しく見せてくれますし、下ノ町同様、所々散在する茅葺民家が、町並みに変化を与えています。

街道から、細く曲がった路地奥には、火災や水害に対し雪駄あらたかな権現神社があります。

さらに、江戸時代からの番所が現存しています。伝建地区で唯一残る番所建物として、近年中に復元整備される予定です。

旧道と国道の間には、一昨年に、道の駅も完成しました。

さらに道は、峠を予感させる登り坂となりながら、京の都へと進んでいくのです。

熊川宿……………1

寄稿文……………2・3

寄稿文・行事……………4

活動報告……………5・6

「てっせん踊り」の復興を喜ぶ

若狭歴史民俗資料館 勤務 永江秀雄
上中町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員

昭和三十九年一月のこと、作家の水上勉先生が、義民「松木さん」の歴史と資料を調べるため来訪され、以前から若狭の歴史研究のことで親しい交流のあった私は、新道や熊川を御案内しました。この時に、「昔、熊川で何か特別な民俗行事がなかったのかな」と尋ねられた水上先生の一言がきっかけとなり、私は改めて熊川の行事を調べてみました。

そこで初めて、熊川には大正の初め頃まで「てっせん踊り」という優雅な盆踊りがあったこと、それは京都の八瀬・大原から伝わったといわれていたこと等を知りました。かつて熊川の村長もされた勢馬清兵衛翁から、特に懇切なお教えを頂きました。そして、熊川のどこかに「てっせん踊り」の唄本が残っているかも知れないと聞かされ、熊川のお家を次々と尋ね回りました。

その時、私と同じく農協に勤めていた上ノ町の掛谷（今、勢馬）和子さんが、近所の河合五郎兵衛

さんのお家に『鉄扇踊り』の音頭集があったと聞いて、私の所へ持ってきて下さいました。「上げる」と言っておられたとのことでしたので、個人で頂くわけにはいかないので、上中町へ寄贈して頂きました。これが

現在、熊川の宿場館に展示されている「音頭集」です。

その後、

私はこの音頭集を全文解説し、著名な歴史学者林屋辰三郎博士のお勧めで、『藝能史研究』という専門誌に発表させて頂きました。また、これを色々な機会に発表紹介したり、音頭の内容の国文学的な価値を学んだりしつつ、この踊りの復興を切に願ひ続けてきました。このような時に、私の勤務している若狭歴史民俗資料館へ来館し、鯖街道のことを尋ねられた京都の方から、京都の一乗寺という所で、今もこの踊りが続けられて



いると聞くことができました。

私は早速に、京都の研究者のことや現地で踊られている方のことを調べ、京都市当局からも資料を頂き、京都市左京区一乗寺の「鉄扇踊り」の存在を確認しました。

その後は、熊川の皆様の熱意と、上中町教育委員会のバックアップもあり、一乗寺の河村正男氏などを中心とされる地元の皆様から、極めて親切なご指導ご協力を頂き、熊川にも平尾希典氏を会長とする保存会も結成され、「てっせん踊り」は、見事に熊川に復興されました。まことに、喜ばしい限りであります。

ちよつとご紹介

永江先生は、かつて熊川小学校で、教鞭を執られたこともある方です。

長年、熊川や上中町、さらには若狭の歴史や地名、民俗について調査研究を進めて来られました。

昨年その功績に対し、文化財保護功勞の文部大臣表彰を受けられました。



京都・一乗寺について

京都市左京区一乗寺は、宮本武蔵一乗寺下り松決間の地として知られているところですが、



一乗寺で今も踊り継がれている「鉄扇踊り」はかつて熊川宿にも伝わり、大正時代まで踊り続けられて来ました。

しばらく途絶えていたこの「てっせん踊り」が永江先生をはじめ、地元保存会の皆さんの力で見事に甦りました。

八月三十一日の一乗寺八朔祭や、秋の熊川いっぶく時代村で、交流が行われています。

技術を生かして

町並み保存伝統技術研究会 会長 西野 徳三

熊川宿も、重要伝統的建造物群保存地区に平成八年に選定されて、早いもので五年がたちました。教育委員会の永江寿夫君から熊川宿の建物保存の事でいろいろ聞かされ、私も地区民としてひとつ地域に少しでも役だつ事と思ひ、上中町内の建築に携わる有志に声をかけ集まっていた



だき、平成十年七月に「町並み保存伝統技術研究会」を発足いたしました。

会員は十五名ほどで、今日まで二年半ほどたちますが、熊川宿デザインガイドブック作成、外灯見本作成、視察研修会、その他多数の事業活動を行なってきました。

福井先生、吉田先生、柴田君らの指導により、会員もみんな本職であるため、熱心に勉強され、充実した会になってきたなと思っております。

古い物が壊されていく今日、そ

れを壊さず住みながら維持をしていくのは大変な事で、住民の方の御理解と御協力がなければ出来ない事だと思ひますが、近年区民の方々の町並みに対しての考えが大変かわってきて熱心に取り組んでおられるようです。少しでも地域活性化になればよいかなと思ひます。

私たちの研究会も、熊川宿が少しでも充実した町並みになるように頑張りますし、区民の皆さんも熊川宿には我々の技術研究会がある事も認識していただき、常に相談していただき、あればありがたいと思ひます。



よい家づくりへのお手伝い

熊川宿町並み相談員 柴田 純男

街道を歩いていたり車で通っていると、挨拶を返して頂いていつもありがとうございます。

「この前は案内しておられたけど誰と一緒にやったん？」と、声をかけていただく度に熊川に関わっている私を感じます。

直接このまちづくりに関わらせていただいたのは、旧逸見勤兵衛家の修理工事からでした。多くの重要伝統的建造物群を見にいきましたが、その地をただ歩きまわるだけでなく、その地域で生活する方々や修理に関連しておられる方々とのふれあいを大切にしております。

熊川には前川のせせらぎや自然の美しさがあるように、他の地にも生活と自然が溶け込むいい家並みがあります。そして、それらを誇りに感じる方々が沢山おられることを知り、その思いが強くなるとまっぴいなければ



ば、町並みづくりが築かれていない事を教えていただきました。

選定後の平成八年から本格的な修理工事が始まり、これまでほとんどの修理工事にお手伝いさせていただきました。関わってきました建物には住まいをしている方々の思いがあり、特色のある宝が備わっていることを大切にして、痕跡を見つめる文化財としての修理に携わっております。

先日、鈴木有秋田県立大学教授の話に「よい家づくりを大切に」との話がありました。これからもよい家づくりに関わらせていただきます。

語り部として

上中語り部 下嶋 糸み子

されながら、依頼の電話があるとなしく出かけております。

私事ですが、昔マイ

上中語り部として昨年も熊川宿に來られるお客様に数回案内をさせていたたく機会がありました。最初にお客様にお聞きする事は「お時間はどれだけでしょうか」です。だいたい三十分位です。

クを持ち、この熊川を年に何回、いや何十回となく往復したものです。その頃を思い出す熊川は、案内よりも対向車が無くスムーズに通過出来る事ばかり思っています。

短時間の中でどれだけ満足いただける案内が出来るか初めはしどろもどろで、これで良かったのかな、また逆に印象を悪くしたのではないだろうかとお客様と区民の方に申し訳なく落ちこんだり、でも回を重ねるたびに自分でも新しい発見があったりつくろろうさんやね」と声をかけて下さる区の方に励ま

語り部としてはまだまだ駆け出しの私が、先人達が残してくれたすばらしい町並み熊川宿を案内出来る事を誇りに、先輩の語り部の方や、町並みを保存しておられる熊川区民の皆様にごえていただきながら、浅学な私ですが、この宿場町熊川を楽しく案内出来たらなあと思っております。

優しい住まい

柚 由美

二階の大きな窓から風が抜け、明るい光が射し込んでくる。こんなあたり前の日常がいちいち嬉しいのは自然が身近にあり、心地よい自分の居場所があるからだと思えました。

主人に手を引かれて初めて家を訪れた日、卒倒すので両親には申し訳なかったけれど、なんだか懐かしい心地よさがありました。

人生の速度がゆっくりになる住空間の不思議。あれから十六年、保存改修された我が家は、作家の大庭桂先生の「若返った」の言葉通り、二十一世紀も百五十才で現役です。

この窓と、風景に溶け込む優しいたたずまいが好きです。質素な住まいだけれど、お互いの気配が感じられる安心感があって、古材を生かし工夫された空間は古いものと新しいものが融和していてとても穏やかです。のびやかな感性で立ち上げて下さった設計士さん、様々な分野の熟練の職人さんのおかげだと感謝しています。



平成12年度 年間行事報告

平成12年(2000年)

5月 3日 白石神社例祭

8月 13日 第6回まちづくりフォーラム



8月 15日 納涼盆踊り

10月 13日～15日

熊川いっぶく時代村



10月 16日 松木神社例祭

11月 3日 鯖街道ふれ味道中

平成13年(2001年)

2月 18日 まちづくり総集会

平成13年度 行事予定

5月 3日 白石神社例祭

8月 第7回まちづくりフォーラム

8月 15日 納涼盆踊り

10月 13日～14日

熊川いっぶく時代村

10月 16日 松木神社例祭

11月 3日 鯖街道ふれ味道中

熊川宿まちづくり総集会

平成13年2月18日

早春の穏やかな日和に恵まれ「熊川宿まちづくり総集会」は、熊川児童館で、町関係者と区民が参加して開催されました。

初めに藤本区長が、「夢のある飛躍する熊川宿にしたい」と挨拶。霜中町長は、「まちづくりは、住んでいる人が『かけがえのない、誇りの持てる素晴らしい町並み』と気付いてくれることが大切。活きたまちづくりを見て、立派によりがえってよかった。下ノ町・上ノ町整備も楽しみながら進めて行きたい」と語られました。

奥本教育長は、他の区から見た感想を「選定後はもちろん、選定前からの取り組みが素晴らしい。もう少し店があるといい」と述べられました。

うそのない本物の心



教育委員会の松宮克也さんは、愛媛県内子町、町営農家民宿「石

畳の宿」の研修について、笑いを誘いながら楽しく話してくれました。

「石畳の宿」は、廃屋民家を移築して、地元の奥さん方で運営されている民宿。

食事は自家製料理と、川で獲った魚。たくさんで驚いた。お米は、胚芽



ズナブルな料金だが、赤字は出ていない。星空がスカートと見えて、いろいろのある田舎そのもの。研修で来て、次は家族で来る人も多い。

なぜこんな所へ来るのか？ それは「うそのない本物の心」ではないか。農家のおばちゃんが真心で対応してくれる。化学調味料を使わない本物の自然食。だから心に残る宿であった。

向こうが明るく見える
まちづくり

最後に河合会長が、報告と抱負を述べました。

今年は、「町並み憲章」を作りたい。フォーラムは、五年を迎えるの記念行事など、愉快な場所にした

逸見勤兵衛家を活用して、野菜や清流を使ってお客さんの歓迎をできないか。

みんなに何らかの活動に入ってもらい、区民自らが誇りを持って、まちづくりを進めて行きたい。

今日は多くの人に集まってもらえて有難いと締めくくりました。

山車復活に向けて

白石神社例祭の栄華再び、山車の調査、復活へ

11月3日

昭和三十八年まで続けられていた山車の巡行を復活しようとして、白石神社神楽殿に収納されている部品を組み立て、



寸法取りなど調査が始まりました。三年後の例祭での復活を目指しています。

山車を考える講演会

12月8日

若狭歴史民俗資料館の垣東敏博先生を迎え、ヤマ、ダシの由来や移り変わりをスライドを交えて学びました。



勝山市の一行が来訪

11月11日



勝山市の社会教育委員さんや市内の公民館長さん、運営審議委員さんなど三十五名が、「まちづくり活動に弾みをかけるには 郷土賞の実践力」というテーマで、熊川へ視察に来られました。

得法寺の松お別れ法要

11月10日

「家康腰掛けの松」の名で親しまれてきた得法寺の大木が、従来からの治療のいかにも虚しく、枯死を前に切られました。これに先立ち、十一月十日に悲しいお別れの法要が行われました。



松木神社石段改修祈願

12月10日

松木神社参道の石段が、たいへん傷んできたことから、その修繕と、更には一部石畳敷きへの整備も行われることとなりました。

工事に先んじて、安全祈願祭が行われました。



文化庁文化財調査官

林良彦先生を囲んで

12月11日

昨年四月より、江面嗣人先生に代わって熊川宿の担当となられた文化庁建造物課の林良彦先生が来られました。そして、先生を囲んでご指導を仰ぐため、まちづくり特別委員会、伝統芸



能保存会、つる細工の会の会員が、旧逸見家が集まり、それぞれの活動を報告しました。特に、つる細工の作品の出来栄えには、目を見張っておられました。



まちづくり合同学習会

1月24日

秋田県立大学の鈴木有先生が、福井宇洋先生との御縁で、熊川に来られました。これを機に、町並み保存伝統技術研究会とまちづくり特別委員会の合同の学習会を開きました。



作品募集

作文	感想文	随筆
絵画	水彩画	墨絵
写真	俳句	川柳

など

話題や情報も広く募集しています。どうぞお気軽にお寄せください。

あとがき

木の芽もふくらみ始め、近くに春の訪れを感じさせられます。

熊川宿も、住いの修理と景観整備が年々進められ、「宿場町」らしさが蘇って来ました。これも国や県、そして町の皆様方の大変なご尽力の賜物と、深く感謝致しております。

広報「町並み通信第三号」を発行できました。当委員会では、皆様から作品を募集しています。どんな分野でも結構です。皆様のご意見ご感想もお寄せ下さい。お待ちしております。

次号第四号は、七月上旬の発行を予定しています。

編集委員